資料－２

人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト
追加選定リスト(原案)

平成２４年度に開催した３回の選定委員会での指摘事項を踏まえて、次のとおり天竜川流域の水にまつわるものを中心に絞り込み作業を行い、新たに１０件を追加選定し、都合８９件の追加選定リスト（原案）を作成した。

１．選定リスト作成にあたっての考え方

（１）選定基準について

下記の選定基準に基づいて選定を行った。（除外の基準に該当するものを除く）

・選定基準抜粋

＜選定基準①＞　土木工学的な工夫が認められる遺構

＜選定基準②＞　自然史や自然災害の歴史を示すもので、後世に引き継ぐべきもの

＜選定基準③＞　地域住民が生活していく上で、努力や工夫をしなければならなかった背景が判るもの

⇒選定基準②で云う「自然災害」は、主として次に示す著名な災害に該当するものとして、絞り込み作業を行った。

・未の満水：1715 年に発生した天竜川上流の洪水のなかでも特筆すべき被害を与えたもので、発生年の十二支から「未[ひつじ]の満水」と呼ばれている。

・三六災害：1961 年(昭和 36 年)に発生した大雨による災害。特に長野県南部の伊那谷など天竜川流域に氾濫や土砂災害による甚大な被害を与えた事で知られている。

・遠山の地震：714 年と 1718 年に発生した大きな地震により、山が崩れて遠山川がせき止められ、その後決壊し大きな被害を与えたことで知られている。

（２）空間、時間軸などの繋がりやストーリー性の取り扱いについて

⇒選定基準のいずれかに該当する地域資源を「空間、時間軸などの繋がりやストーリー性」に基づいて作成した**キーワード**ごとにグループ化するなどの手法で優先的に選定した。

※下線部は、第３回選定委員会等の指摘により追加した地域資源
※（重複）は複数のキーワードに該当しているもの

①「土木工学的な工夫」を重視したグループ

（重複）・Ａ００３　上蔵砂防堰堤（わぞさぼうえんてい）
（重複）・Ａ０１９　西天竜幹線水路 円筒分水工群（にしてんりゅうかんせんすいろえんとうぶんすいこうぐん）
（重複）・Ａ０２０　東天竜一貫水路（ひがしてんりゅういっかんすいろ）
（重複）・Ａ０２３　（旧）深沢川水路橋（（きゅう）ふかさわがわすいろきょう）
（重複）・Ａ０３０　北の沢眼鏡橋（きたのさわめがねばし）
（重複）・Ａ０３１　坂戸橋（さかどばし）
（重複）・Ａ０４１　泰阜ダム（やすおかだむ）
（重複）・Ａ０４７　三信鉄道（さんしんてつどう）
（重複）・Ａ０５２　七釜砂防堰堤（ななかまさぼうえんてい）
・Ａ０５５　美和ダム（みわだむ）
・Ａ０５６　小渋ダム（こしぶだむ）

②「防災に対する意識」を効果的に後世に引き継ぐことを重視したグループ

a **未の満水**に学ぶことができるもの

・Ａ００７　三界萬霊塔（さんかいばんれいとう）／六地蔵（ろくじぞう）
・Ａ０１４　夜泣き石（よなきいし）
・Ａ０１５　夜泣き地蔵（よなきじぞう）／出砂原の大石（ださらのおおいし）

b **三六災害**に学ぶことができるもの

・Ａ００５　川路郷家屋移転記念碑（かわじのさとかおくいてんきねんひ）
・Ａ００６　三六災最高水位標（さぶろくさいさいこうすいいひょう）
・Ａ００８　大西山崩壊地（おおにしやまほうかいち）
・Ａ０１２　四徳集落跡（しとくしゅうらくあと）
・Ａ０１３　北川集落跡（きたがわしゅうらくあと）
（重複）・Ａ０３２　小渋橋（こしぶばし）
・Ａ０８０　濁流の子～伊那谷災害の記録～（出版物）
（だくりゅうのこ～いなだにさいがいのきろく～（しゅっぱんぶつ））

c **遠山の地震**に学ぶことができるもの

・Ａ０１１　夜川瀬地区の氾濫（よがわせちくのはんらん）
・Ａ０１６　遠山の埋没林（とおやまのまいぼつりん）

③ 「自然環境に適応してきた先人の足跡」を効果的に後世に引き継ぐことを重視したグループ

a 全国的にも希な**地球活動の痕跡**を体感できるもの

・Ａ００９　鳶ヶ巣大崩壊地（とびがすだいほうかいち）／鳶ヶ巣大崩壊地のビューポイント（とびがすだいほうかいちのびゅーぽいんと）
・Ａ０１０　百間ナギ（ひゃっけんなぎ）／百間ナギのビューポイント（ひゃっけんなぎのびゅーぽいんと）
・Ａ０３７　千畳敷カール（せんじょうじきかーる）
（重複）・Ａ０３８　田切地形（たぎりちけい）／田切地形のビューポイント（たぎりちけいのびゅーぽいんと）
・Ａ０５３　前茶臼ナギ（まえちゃうすなぎ）
・Ａ０５４　荒川大崩壊地（あらかわだいほうかいち）
・Ａ０７９　深見池（ふかみいけ）
（重複）・Ａ０８２　切石公園（きりいしこうえん）
・Ａ０８４　安康露頭（あんこうろとう）
・Ａ０８５　北川露頭（きたがわろとう）

b 伊那谷特有の**田切地形**に適応してきた先人の足跡を体感できるもの

（重複）・Ａ０３８　田切地形（たぎりちけい）／田切地形のビューポイント（たぎりちけいのびゅーぽいんと）
（重複）・Ａ０３０　北の沢眼鏡橋（きたのさわめがねばし）
（重複）・Ａ０５７　太田切川の井筋（おおたぎりがわのいすじ）
（重複）・Ａ０５９　恩田井水（おんだいすい）
（重複）・Ａ０６０　千人塚公園 城ヶ池（せんにんづかこうえん じょうがいけ）
（重複）・Ａ０８１　太田切川 橋場礎石（おおたぎりがわ はしばそせき）
（重複）・Ａ０８２　切石公園（きりいしこうえん）

c **水害や土砂災害**に適応してきた先人の足跡を体感できるもの

・Ａ００１　名古山の水除け（なごやまのみずよけ）
・Ａ００２　理兵衛堤防（りへえていぼう）
（重複）・Ａ００３　上蔵砂防堰堤（わぞさぼうえんてい）
・Ａ００４　粟沢川掘り抜き（あわさわがわほりぬき）
・Ａ０１８　河原弁天(後ろ向き弁天)（かわらべんてん(うしろむきべんてん)）
・Ａ０３９　霞堤（かすみてい）
・Ａ０４２　惣兵衛堤防（そうべえていぼう）
・Ａ０４８　伴野堤防（とものていぼう）
・Ａ０４９　座光寺石川除（ざこうじいしかわよけ）
・Ａ０５０　お志茂の水よけ（おしものみずよけ）
・Ａ０５１　日向沢砂防堰堤（ひなたざわさぼうえんてい）
（重複）・Ａ０５２　七釜砂防堰堤（ななかまさぼうえんてい）

④ 「水の恵みとふれ合うことができる先人の足跡」を効果的に後世に引き継ぐことを重視したグループ

a **電源開発**に挑んだ先人の情熱とふれ合うことができるもの

・Ａ０１７　平岡ダム（ひらおかだむ）
（重複）・Ａ０４１　泰阜ダム（やすおかだむ）
（重複）・Ａ０４７　三信鉄道（さんしんてつどう）
・Ａ０６３　小黒発電所（おぐろはつでんしょ）

・Ａ０６４　大久保発電所（おおくぼはつでんしょ）
・Ａ０８３　松川第一発電所（まつかわだいいちはつでんしょ）

b **利水開発**に挑んだ先人の情熱とふれ合うことができるもの

（伊那地域）

（重複）・Ａ０１９　西天竜幹線水路 円筒分水工群（にしてんりゅうかんせんすいろ えんとうぶんすいこうぐん）
（重複）・Ａ０２０　東天竜一貫水路（ひがしてんりゅういっかんすいろ）
（重複）・Ａ０２３　（旧）深沢川水路橋（（きゅう）ふかさわがわすいろきょう）
・Ａ０２４　伝兵衛五井（でんべえごい）
・Ａ０２５　木曽山用水（きそやまようすい）
・Ａ０２６　御子柴艶三郎による井戸（みこしばつやさぶろうによるいど）
（重複）・Ａ０５８　西天竜幹線水路 流末の階段工（小沢のそろばん滝）
（にしてんりゅうかんせんすいろ りゅうまつのかいだんこう）
（おざわのそろばんたき））

（駒ヶ根地域）

（重複）・Ａ０５７　太田切川の井筋（おおたぎりがわのいすじ）
（重複）・Ａ０６０　千人塚公園 城ヶ池（せんにんづかこうえん じょうがいけ）

（飯田地域）

・Ａ０２１　竜西一貫水路（りゅうさいいっかんすいろ）
・Ａ０２２　竜東一貫水路（りゅうとういっかんすいろ）
・Ａ０４６　松川プール（まつかわぷーる）
（重複）・Ａ０５９　恩田井水（おんだいすい）

⑤「文化の交流に関する先人の足跡」を効果的に後世に引き継ぐことを重視したグループ

a 人々の暮らしを支えた**中馬と通船の歴史**を振り返ることができるもの

・Ａ０３４　入舟船着場（いりふねふなつきば）
・Ａ０３５　時又港（ときまたこう）
・Ａ０４０　伊那街道(三州街道)（いなかいどう(さんしゅうかいどう)）
・Ａ０８６　秋葉街道（あきはかいどう）

b 人々の暮らしを支えた**橋の歴史**を振り返ることができるもの

・Ａ０２８　姑射橋（こやきょう）
・Ａ０２９　南原橋（みなばらはし）
（重複）・Ａ０３０　北の沢眼鏡橋（きたのさわめがねばし）
（重複）・Ａ０３１　坂戸橋（さかどばし）
（重複）・Ａ０３２　小渋橋（こしぶばし）
・Ａ０３３　びったら橋（びったらばし）
・Ａ０４３　大橋（おおはし）
・Ａ０６５　虹橋（にじばし）
・Ａ０６６　めがね橋（長姫橋）（めがねばし（おさひめばし））
・Ａ０６７　伊那路橋（いなじばし）
・Ａ０６８　北の城橋（きたのじょうばし）
・Ａ０６９　中之橋（なかのばし）

・Ａ０７０　南宮大橋（なんぐうおおはし）
・Ａ０７１　天竜橋（てんりゅうばし）
・Ａ０７２　羽衣崎橋（はごろもざきばし）
（重複）・Ａ０８１　太田切川 橋場礎石（おおたぎりがわ はしばそせき）

c 人々の暮らしを支えた**森林鉄道の歴史**を振り返ることができるもの

・Ａ０６１　三峰川の森林鉄道跡（みぶがわのしんりんてつどうあと）
・Ａ０６２　遠山の森林鉄道 梨元貯木場（とおやまのしんりんてつどう なしもとちょぼくじょう）

d 人々の暮らしを支えた**峠の歴史**を振り返ることができるもの

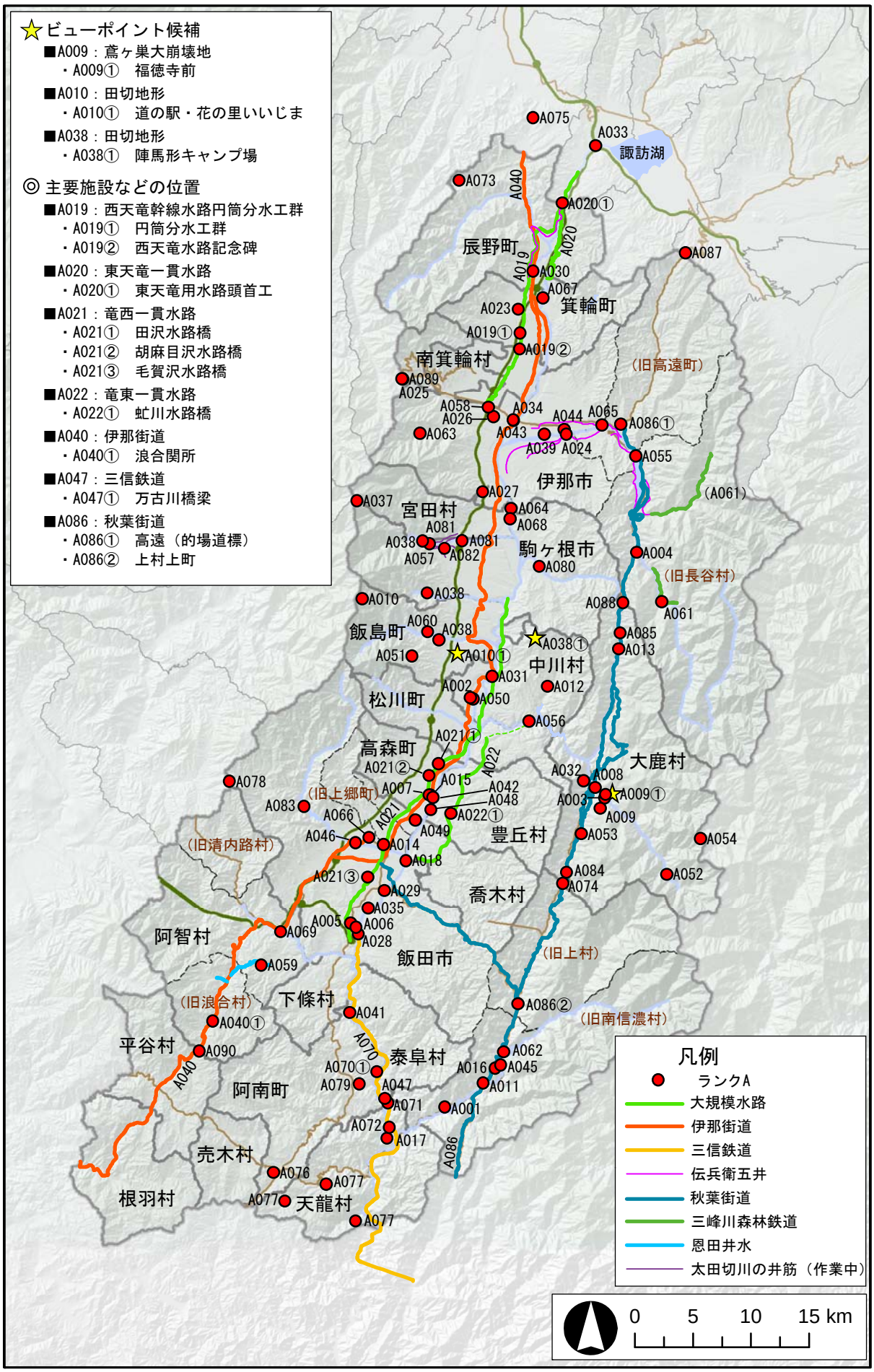
・Ａ０７３　牛首峠（うしくびとうげ）
・Ａ０７４　地蔵峠（じぞうとうげ）
・Ａ０７５　善知鳥峠（うとうとうげ）
・Ａ０７８　大平峠（おおだいらとうげ）
・Ａ０８７　杖突峠（つえつきとうげ）
・Ａ０８８　分杭峠（ぶんぐいとうげ）
・Ａ０８９　権兵衛峠（ごんべえとうげ）
・Ａ０９０　治部坂峠（じぶざかとうげ）

e **自然と共生**してきた先人の暮らしを体感できるもの

・Ａ０２７　伊那市諏訪形の猪垣（いなしすわがたのししがき）
・Ａ０４４　さんよりこより
・Ａ０４５　遠山の霜月祭（とおやまのしもつきまつり）
・Ａ０７６　雪祭（ゆきまつり）
・Ａ０７７　天龍村の霜月神楽（てんりゅうむらのしもつきかぐら）

（３）地域毎のバランスについて

選定した地域資源の分布状況を別紙－１に整理した。今後、これらの分布状況にも考慮して追加選定作業を進めるものとする。


☆ビューポイント候補
■A009：鳶ヶ巣大崩壊地
・A009①　福徳寺前
■A010：田切地形
・A010①　道の駅・花の里いいじま
■A038：田切地形
・A038①　陣馬形キャンプ場
◎ 主要施設などの位置
■A019：西天竜幹線水路円筒分水工群
・A019①　円筒分水工群
・A019②　西天竜水路記念碑
■A020：東天竜一貫水路
・A020①　東天竜用水路頭首工
■A021：竜西一貫水路
・A021①　田沢水路橋
・A021②　胡麻目沢水路橋
・A021③　毛賀沢水路橋
■A022：竜東一貫水路
・A022①　虻川水路橋
■A040：伊那街道
・A040①　浪合関所
■A047：三信鉄道
・A047①　万古川橋梁
■A086：秋葉街道
・A086①　高遠（的場道標）
・A086②　上村上町
諏訪湖
辰野町
箕輪町
南箕輪村
（旧高遠町）
伊那市
宮田村
駒ヶ根市
（旧長谷村）
飯島町
中川村
松川町
高森町
大鹿村
（旧上郷町）
豊丘村
（旧清内路村）
喬木村
阿智村
飯田市
（旧上村）
（旧浪合村）
下條村
（旧南信濃村）
平谷村
泰阜村
阿南町
売木村
根羽村
天龍村
凡例
ランクA
大規模水路
伊那街道
三信鉄道
伝兵衛五井
秋葉街道
三峰川森林鉄道
恩田井水
太田切川の井筋（作業中）
0
5
10
15 km

■伊那谷遺産件数（［市町村-大分類］別の件数 ）

リスト数	89

	point					合計
市町村名	治水	利水	産業	交流	風土	
伊那市	5	2	3	6		16
駒ヶ根市	1	1	1	1	3	7
飯田市	10	2	2	7		21
辰野町		2		2		4
箕輪町		2		1		3
南箕輪村		1		1		2
宮田村		1		1	2	4
飯島町	2	1			1	4
中川村	4			1	1	6
売木村						0
大鹿村	7			3	2	12
松川町	1					1
高森町	2	1				3
豊丘村	1	1				2
喬木村						0
阿智村		1		3		4
下條村						0
泰阜村				2		2
平谷村				1		1
阿南町	1			1	1	3
根羽村						0
天龍村	2			2		4
岡谷市				1		1
塩尻市				2		2
広域	1					1
合計	37	15	6	35	10	103

	line		合計
市町村名	利水	交流	
伊那市	1	2	3
駒ヶ根市		1	1
飯田市	2	3	5
辰野町	1	1	2
箕輪町	1	1	2
南箕輪村	1	1	2
宮田村		1	1
飯島町		1	1
中川村	1	1	2
売木村			0
大鹿村		1	1
松川町	2	1	3
高森町	1	1	2
豊丘村	1		1
喬木村	1		1
阿智村			0
下條村			0
泰阜村		1	1
平谷村		1	1
阿南町			0
根羽村		1	1
天龍村		1	1
岡谷市			0
塩尻市			0
広域			0
合計	11	17	28

『point』:大規模水路の主要施設および田切地形のポイントが複数選定してあるため、リスト数と集計総数は一致していない。

『line』:水路・街道・鉄道などは複数の市町村にまたがることから、それぞれの市町村をカウントした。

『濁流の子－伊那谷災害の記録（出版物）』は広域遺産としてカウントした。

■資料－２　人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト　基本リスト（事務局素案）【ランクA】　　:ランクAへの新規追加提案事項　　平成25年10月3日現在

大分類	小分類	No.	名称	説明	所在地	選定基準	除外基準	市町村名	年代	（西暦）	キーワード	建立の年代（碑など）
1.治水	堤防	A001	名古山の水除け	南信濃の南和田名古山のゆるい斜面は、崖崩れと土石流によってできたものである。江戸時代につくられた水除けの堤防が残っている家があり、昭和の初めの土石流でも家を守った。	飯田市南信濃南和田	3		飯田市	江戸時代		水害・土砂災害	
1.治水	堤防	A002	理兵衛堤防	中川村にある、松村理兵衛忠欣、常邑、忠良の三代にわたって天竜川に築かれた堤防。1808（文化5）年に完成。天竜川の大水の度に決壊し、そのつど補強や増築を繰り返してきた。時には新たに作り替えもしてきた。現在も現地に保存されており、天の中川橋からその一部を見ることができる。また、一部は天の中川橋のたもとに移築復元されている。	中川村片桐	3		中川村	江戸時代（安永元年～文化5年）	1772～1808	水害・土砂災害	
1.治水	砂防施設	A003	上蔵砂防堰堤	小渋川に築かれた堤高23mのアーチ式コンクリート造堰堤。1954（昭和29）年完成した天竜川流域唯一のアーチ式砂防ダム。1951（昭和26）年着工で1954（昭和29）年に完成したが、その後の洪水で底ぬけを起こし、1961（昭和36）年に復旧事業が行われた。1966（昭和41）年度には副ダムの嵩上が、1970（昭和45）年には第2副ダムが施工され、現在に至っている。2009（平成21）年に国の登録有形文化財に登録された。	大鹿村大河原	1,3		大鹿村	昭和29年完成	1951～1954	土木工学的な工夫/水害・土砂災害	
1.治水	砂防工事	A004	粟沢川掘り抜き	粟沢川の氾濫を防ぐため、切り通しを掘り、粟沢川の流路を三峰川へ繋げるように変更する大工事を実施した。主な工事は1844（弘化元）年に一段落をみた。道路工事により掘り抜きを拡幅し、往時の雰囲気は留めていない。掘り抜きの上流に由来を示す看板と市野瀬城主の墓石がある。	伊那市長谷市野瀬	3		伊那市	江戸時代（弘化元年）	1844	水害・土砂災害	
1.治水	碑など	A005	川路郷家屋移転記念碑	三六災害により川路地区の低平地の家屋は壊滅的な打撃を受け、災害後移転した。1966（昭和41）年に現在の堤防が完成し、家屋の移転が終わったのを記念して建てられた記念碑。川路駅周辺の旧国道沿いには170戸が移転した跡地に塀や門が残されている。	飯田市川路	2		飯田市	昭和36年	1961	三六災害	昭和41年
1.治水	碑など	A006	三六災最高水位標	天竜川総合学習館にある三六災害時の最高水位を示す標柱。地上から3～4mの高さまで水位が上昇したことが示されている。	飯田市川路	2		飯田市	昭和36年	1961	三六災害	
1.治水	碑など	A007	三界萬霊塔／六地蔵	三界萬霊塔には、未の満水でなくなった多くの人々や獣などの冥福を祈る言葉が彫ってある。1695（元禄8年）に松岡山安養寺の了渓禅師が建立した。六地蔵は、1841（天保12）年に再建された。市田駅近くにある。	高森町下市田	2		高森町	江戸時代（正徳5年）	1715	未の満水	江戸時代元禄8年/天保12年
1.治水	崩壊地	A008	大西山崩壊地	1961（昭和36）年6月29日、大鹿村の小渋川沿いにある大西山が大崩壊した。崩壊は高さ450m、幅500m、厚さ15mに渡り、大量の石や土砂が小渋川の堤防よりもはるかに高い山津波となって対岸の家屋に押し寄せた。濁流によって約30万m2が消失し、家屋40戸が流され、42名の命を奪った。	大鹿村大河原	2		大鹿村	昭和36年	1961	三六災害	
1.治水	崩壊地	A009	鳶ヶ巣大崩壊地／鳶ヶ巣大崩壊地のビューポイント	明治以前から崩壊が続いている面積が30haにも及ぶ大崩壊地。土砂が小渋川をせき止め、たびたび災害を引き起こしていた。川沿いには押し出された扇状地が小渋川に削られて、何層にもなったレキ層が見られる。大鹿村上蔵の福徳寺前から崩壊地が望め、案内看板もある。	大鹿村大河原／大鹿村上蔵（福徳寺前）	2		大鹿村	明治以前から続く		地球活動の痕跡	
1.治水	崩壊地	A010	百間ナギ／百間ナギのビューポイント	与田切川の源流部に存在する「百間ナギ」と呼ばれる大崩壊地は、崩壊で堆積した礫層の厚さが60mに達し、現在も常に土砂の流出が続いている。道の駅・花の里いいじま付近から望むことが出来る。	飯島町／飯島町七久保（道の駅・花の里いいじま）	2		飯島町	現在も続く崩落		地球活動の痕跡	
1.治水	被災地	A011	夜川瀬地区の氾濫	1718（享保3）年の地震（遠山地震）により、盛平山の北斜面が崩落し、岩塊が遠山川を堰き止めた。この時できた山が出山であり、亡くなった人の供養塔もある。遠山川が堰き止められて天然ダムができたが夜に決壊し、遠山川沿いにある和田集落の対岸の「夜川瀬地区」に土砂が流出・堆積して一夜にして氾濫原ができた。	飯田市南信濃和田	2		飯田市	江戸時代（享保3年）	1718	遠山地震	
1.治水	被災地	A012	四徳集落跡	周辺地域は小さい谷が網の目のように広がる丘陵地帯で、三六災害時には、土石流が起こり、小渋川合流点で河床が約10m上昇した。中川村の四徳集落では80戸のうち61戸が被災し、7名が死亡した。人々は集団移住を余儀なくされ、700年に及ぶ集落の歴史に終止符を打った。今では原野に戻っている。	中川村四徳	2		中川村	昭和36年	1961	三六災害	

■資料－２　人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト　基本リスト（事務局素案）【ランクA】　　:ランクAへの新規追加提案事項　　平成25年10月3日現在

大分類	小分類	No.	名称	説明	所在地	選定基準	除外基準	市町村名	年代	（西暦）	キーワード	建立の年代（碑など）
1.治水	被災地	A013	北川集落跡	大鹿村の鹿塩川沿いにあった北川集落は、1961（昭和36）年6月27日、豪雨による土石流で39戸の民家と北川分校が土砂の下に埋まった。さらに、29日には西山が地すべりを起こし、鹿塩川を一時的に堰き止めた。鹿塩川にかかっていた橋の取り付け部分が流され、コンクリート部分だけが門のように残る。記念碑も立っている。	大鹿村鹿塩	2		大鹿村	昭和36年	1961	三六災害	
1.治水	災害の痕跡	A014	夜泣き石	未の満水の際に、野底川上流の山崩れによって川が堰き止められた。その後土砂が一気に決壊し、川幅の数十倍に広がった激流が土石流を発生させた。この土石流によって野底川の上流から松川合流点付近まで全長7mにもおよぶ巨石が運ばれてきた。子どもが下敷きになって亡くなり、子どもの泣き声が聞こえてきたので、供養のために石の上に地蔵を祀ったとされる。	飯田市上郷別府	2		飯田市	江戸時代（正徳5年）	1715	未の満水	
1.治水	災害の痕跡	A015	夜泣き地蔵／出砂原の大石	未の満水の際の土石流で、大島川上流から流されてきた大石。高森町市田駅前の、ビルの裏側に石垣と挟まれたあまり人目につかない場所にある。受難者を供養するために二基の地蔵がある。石の横を通ると赤ん坊の泣き声が聞こえ、地蔵様を建てたら泣き止んだと言い伝えられている。	高森町下市田	2		高森町	江戸時代（正徳5年）	1715	未の満水	
1.治水	災害の痕跡	A016	遠山の埋没林	714（和銅7）年の大地震で山が崩れ、遠山川の堰き止め湖に木々が埋没した。現在は、当時の埋没林が河床に露出しており、南信濃大島、畑上などで見ることができる。これらの木のほとんどは、直径50cm以上の大木で、中には直径1m以上の巨木や樹齢700年以上のヒノキもあった。	飯田市南信濃	2		飯田市	飛鳥時代	714	遠山地震	
1.治水	ダム	A017	平岡ダム	1951（昭和26）年に竣工した発電用ダム。天竜川流域で戦前に建設・計画されたダムの中では、最大の高さ(62.5m)であり、「暴れ天竜」が作り上げてきた渓谷がそのままダム湖となっている。太平洋戦争の時代に中国・朝鮮半島の人々や敵対する連合国軍の捕虜を強制的に使役して建設した歴史を持つ。	天龍村平岡	3		天龍村	昭和26年	1951	電源開発	
1.治水	弁天・水神等	A018	河原弁天(後ろ向き弁天)	弁天橋下流左岸の河原の自然石の上に祀られ、出水規模の目安にされてきた。天竜川通船の盛んだった江戸時代、商いを営む人たちが祀ったと伝えられる。1738（元文3）年の大洪水で村境の争いが起こったとき、大岡越前守忠相が裁許を下した判決は「大岡裁き」と呼ばれている。	飯田市下久堅下虎岩	3		飯田市	江戸時代（元文3年）	1738	水害・土砂災害	
2.利水	用水路	A019	西天竜幹線水路 円筒分水工群	西天竜幹線水路から水を分けるために設けられた分水施設群。現在、円筒分水工が35基活用されており、大小の分水を加えると実に83基に上るとされる。2006（平成18）年に土木学会選奨土木遺産に認定された。	辰野町、箕輪町、南箕輪村、伊那市	1,3		伊那市、辰野町、箕輪町、南箕輪村	大正8～昭和14	1919～1939	土木工学的な工夫/利水開発	
2.利水	用水路	A020	東天竜一貫水路	辰野町平出の天竜川左岸で取水して、辰野町赤羽・樋口地区から箕輪町北小河内地区へ流下している、総延長9,140mの竜東地区で重要な幹線用水路。 1927（昭和2）年に用水に取水する頭首工が建設された。頭首工の表面は、自然石を配置し、堤体はカーブしている。東天竜用水路頭首工は日本の近代土木遺産(現存する重要な土木構造物2800選)に選定されている。	辰野町平出～赤羽～樋口、箕輪町北小河内	1,3		辰野町	昭和2年	1927	土木工学的な工夫/利水開発	
2.利水	用水路	A021	竜西一貫水路	1969（昭和44)年に竣工。南向発電所（中川村）の放水路から取水し、天竜峡付近に至る。総延長24kmの西天竜一貫水路とほぼ同規模の大用水。これにより、天竜川右岸の扇状地上は、諏訪湖の下流近くから天竜峡に至るまでのほぼ全域が灌漑されることになった。毛賀沢水路橋・胡麻目沢水路橋、田沢水路橋などがある。	飯田市、中川村、松川町、高森町	3		飯田市、駒ヶ根市、中川村、松川村、高森町	昭和44年	1969	利水開発	
2.利水	用水路	A022	竜東一貫水路	「県営灌漑排水事業」として建設された一貫水路。 小渋ダムから飯田市下久堅まで流れる用水路。1967（昭和42）年着工、1979（昭和54）年に竣工したこの用水路により、既成田407ha、開田141ha、畑地238haの計786haが灌漑されるようになった。灌漑対象地域は、松川町生田、豊丘村、喬木村、飯田市下久堅であり、その受益地域は主に標高450～550mの南北に細長い段丘上である。谷を渡る箇所には虻川水路橋や小川サイフォンを見ることができる。	飯田市、松川町、豊丘村、喬木村	3		飯田市、松川町、豊丘村、喬木村、大鹿村	昭和54年	1979	利水開発	

大分類	小分類	No.	名称	説明	所在地	選定基準	除外基準	市町村名	年代	（西暦）	キーワード	建立の年代（碑など）
2.利水	用水路	A023	旧深沢川水路橋	西天竜幹線水路事業で深沢川（箕輪町）の谷を越えるために造られた水路橋。1927（昭和2）年完成。日本の近代土木遺産(現存する重要な土木構造物2800選)及び信濃の橋百選に選定されている。現在は町道（車道）として利用されている。	箕輪町中箕輪八乙女	1,3		箕輪町	昭和2年	1927	土木工学的な工夫 /利水開発	
2.利水	用水路	A024	伝兵衛五井	伊東伝兵衛は三峰川流域を中心に数々の井筋工事を手がけたが、特に黒河内井筋（お鷹岩井筋）、小原井筋、大島二番井、鞠が鼻井筋（伝兵衛井筋）、上伊那井筋（伝兵衛堰）が有名でこれらを伝兵衛五井と呼んでいる。伊東伝兵衛が書き残した図面が伊東家に残されている。	伊那市富県～東春近	3		伊那市、辰野町	江戸時代～昭和		利水開発	
2.利水	用水路	A025	木曽山用水	塩尻市（旧木曽郡楢川村）の奈良井川の源流白川(しらかわ)より水を取り、中山道奈良井宿から伊那へ通じる権兵衛峠に沿うようにして、北沢川へ流すための延長約12kmに及ぶ水路で1873（明治6）年に完成した。本来、日本海へ流れるはずの奈良井川上流白川の水は、この水路を経て太平洋へ流れることになった。 権兵衛峠には分水嶺の碑・古畑権兵衛碑・井筋水桝（奈良井川から北沢川井水を取り入れていた桝）がある。	塩尻市（旧木曽郡楢川村）～伊那市上戸、中条	3		南箕輪村、伊那市、塩尻市	明治6年	1873	利水開発	
2.利水	用水路	A026	御子柴艶三郎による井戸	1898（明治31）年、御子柴艶三郎が作った井戸。御子柴艶三郎は私財を投げ打ち、神に命を捧げる約束のもと横井戸を掘り、苦労の末に水脈を発見。1899(明治32年)12月、約束通り命を絶った。水神宮・碑・穂坂式分水タンクなどが現存する。	伊那市荒井	3		伊那市	明治31年	1898	利水開発	
3.産業	猪垣	A027	伊那市諏訪形の猪垣	江戸時代、藤沢川から太田切川に至る標高700mの地域に、イノシシやシカなどの農作物への被害を防ぐために造られた柵。伊那市史跡の猪垣が残り、土手の上に乱杭を連ねた木柵が復元されている。	伊那市西春近	3		伊那市	江戸時代		自然と共生	
4.交流	橋	A028	姑射橋	天竜川随一の景勝地「天龍峡」に架けられた、四代にわたる歴史のある橋。三代目の姑射橋の親柱は、龍江小学校と川路小学校の校門の門柱として保存されている。三六災害時の「天竜川氾濫最高水位の碑」が設置されている。信濃の橋百選に選定されている。	飯田市龍江～川路	3		飯田市	昭和46年	1971	橋の歴史	昭和61年
4.交流	橋	A029	南原橋	天竜川で最初にかけられた定橋。1870（明治3）年に完成した初代の南原橋は、橋脚を使わない「はね橋」構造であった。川幅が30間（54m)と比較的狭いが断崖絶壁の鷲流峡に橋を架ける仕事は容易ではなかった。南原橋右岸川岸にははね木を支えたと思われる穴が開いている。左岸側にある橋場稲荷境内には、1928(昭和3)年に建てられた南原橋の碑がある。	飯田市下久堅南原～駄科	3		飯田市	明治3年	1870	橋の歴史	昭和3年
4.交流	橋	A030	北の沢眼鏡橋	田切地形である北の沢川（辰野町）の谷を最短ルートで渡れるよう造られた橋。完成1889（明治22）年。橋台が石積み、アーチ部は煉瓦積みで、その形から「めがね橋」と呼ばれた。2011（平成23）年に国の登録有形文化財に登録され、信濃の橋百選に選定されている。	辰野町羽場	1,2,3		辰野町	明治22年	1889	土木工学的な工夫 /田切地形 /橋の歴史	
4.交流	橋	A031	坂戸橋	1993（昭和8）年にした優美な鉄筋コンクリートアーチ橋で、建設当時、鉄筋コンクリートアーチ橋としては我が国最大のスパンを誇った。コンクリートでありながら木彫の面取りを採り入れ、柱は上に細くそそり立つ。そのデザインは圧巻である。2010（平成22）年に国の登録有形文化財に登録され、信濃の橋百選に選定されている。	中川村大草～片桐	1,3		中川村	昭和8年	1993	土木工学的な工夫/ 橋の歴史	
4.交流	橋	A032	小渋橋	三六災害の際に発生した大西山の大崩壊は、42名の命を奪った。 三六災害で一帯が賽の河原と化した中で、変わらぬ姿で架かっていた3連アーチの橋。アーチと桁側面のへこみがしっかりと造られ、コンクリート橋の外観を引き締めている。白銀の赤石岳をバックにしたシルエットが美しい。2011（平成23）年に国の登録有形文化財に登録され、信濃の橋百選に選定されている。	大鹿村大河原	2,3		大鹿村	昭和36年	1961	三六災害 /橋の歴史	

大分類	小分類	No.	名称	説明	所在地	選定基準	除外基準	市町村名	年代	（西暦）	キーワード	建立の年代（碑など）
4.交流	橋	A033	びったら橋	江戸時代末期まで、諏訪湖の排水を妨げるような橋を架設することができなかったことから、川の中に石を置き、その上に板を渡して渡った。板が安定するように石の上に平らなくぼみを彫り、増水時、板が浮いても流れないように、綱を石の穴に通して結んだ。通行人が歩くと、橋板がたわんで川面を「びたびた」と打つため、「びったら橋」といわれたという。	岡谷市御倉町	3		岡谷市	江戸時代末期まで使用		橋の歴史	
4.交流	港・船着場	A034	入舟船着場	江戸時代から船着場として利用された場所。明治になって通船が盛んになり、運行も多く行われた。明治30年代になると、坂下と時又間の定期通船も始まった。 大橋のたもとにあり、弁財天宮の脇に、1971（昭和46）年建立の史跡標柱が残されている。	伊那市坂下	3		伊那市	江戸時代		通運の歴史	昭和46年建立
4.交流	港・船着場	A035	時又港	通船の最盛期を迎えた明治の終わりから昭和の初めにかけて、伊那谷と遠州地方をつなぐ重要な水の道として栄えた。その後、各所に設けられた発電ダムにより水の道は分断されて終焉し、今は、観光遊船が行われているだけとなった。	飯田市時又	3		飯田市	明治・大正		通運の歴史	
5.風土	地形	A037	千畳敷カール	日本で唯一、山の麓から見えるカール。氷河時代には千畳敷は一年中氷に閉ざされ、氷が谷沿いに流れていた。カールはそのときの氷河によって作られた地形。カールの先端には氷河によって押し出された石や土が固まってできたモレーンとよばれる巨大な丘がある。カール壁ではしばしば雪崩が起きるが、モレーンの上部では雪崩が起きる心配がないため標高2,612mにあるロープウェイの終着駅はモレーンの上に作られている。	駒ヶ根市、宮田村	2		駒ヶ根市、宮田村			地球活動の痕跡	
5.風土	地形	A038	田切地形／ 田切地形のビューポイント	天竜川の河岸段丘や断層崖を横断するように、太田切川、中田切川及び与田切川などが流れ、段丘面を激しく浸食して形成された伊那谷特有の地形。また、田切地形を一望することができるビューポイントとして、陣馬形キャンプ場が挙げられる。	宮田村、駒ヶ根市、飯島町／ 中川村大草（陣馬形キャンプ場）	2		宮田村、駒ヶ根市、飯島町			田切地形／地球活動の痕跡	
1.治水	堤防	A039	霞堤	堤防の一部分を切り、下流側の堤防を田んぼや村のある方へ斜め上流に延ばし、ある程度の長さにわたって上流からの堤防と並行するようにするようにしたもの。洪水の一部を氾濫源に逆流するように導き、堤防の決壊を防ぐとともに洪水を調節する効果がある。	伊那市美篶	3		伊那市			水害・土砂災害	
4.交流	街道	A040	伊那街道（三州街道）	伊那街道は、中馬で荷駄を運ぶ通商の道として、江戸時代は盛んに利用された道。別名三州街道とも呼ばれ 中山道塩尻宿から分岐し、辰野、伊那、駒ヶ根、飯田と南下し、浪合、平谷、根羽の各村、杣路峠を経て三河足助を経由し岡崎で東海道に合流する。現在の国道153号線は、ほぼこの道筋をたどっている。浪合には復元された関所跡がある。	辰野町～根羽村	3		辰野町、箕輪町、南箕輪村、伊那市、宮田村、駒ヶ根市、飯島町、中川村、松川町、高森町、飯田市、阿智	江戸時代		中馬の歴史	
1.治水	ダム	A041	泰阜ダム	1935（昭和10）年に竣工した天竜川流域では最も古い歴史を持つ発電用ダム。日本の近代土木遺産(現存する重要な土木構造物2800選)に選定されている。	泰阜村～阿南町	1,3		泰阜村	昭和10年	1935	土木工学的な工夫/ 電源開発	
1.治水	堤防	A042	惣兵衛堤防	飯田藩は現在の明神橋下流の場所に堤防を造る計画を立て、当時75歳の中村惣兵衛を工事長に任命して工事を開始した。1752（宝暦2）年に完成。大川除堤防、惣兵衛川除とも呼ばれる。出水ごとに補強工事がほどこされ、明治以後、上流下流に数条の堤防も新設された。市田・座光寺・上郷の沿岸低地は、市田田圃と言われる米の産地となった。しかし、1961（昭和36）年に発生した三六災害によって、惣兵衛堤防は破堤した。 1854（安政元）年、「惣兵衛翁供養塔」が建立された。	高森町下市田	3		高森町	江戸時代（宝暦2年）	1752	水害・土砂災害	

大分類	小分類	No.	名称	説明	所在地	選定基準	除外基準	市町村名	年代	（西暦）	キーワード	建立の年代（碑など）
4.交流	橋	A043	大橋	古くは通船の船着き場であった場所。今昔とも往来の要衝にあるこの橋は、近隣では大きさも際立っていたことから、自然に「大橋」の名が定着したようで、現在もそれが正式名称となっている。この橋の記録は、織田軍の侵攻（1582（天正10）年）の記述がある『下条記』に「伊那部前之橋」とあるのを筆頭に、『信濃国絵図』（1647（正保4）年）や絵巻『高藩探勝』（1743（寛保3）年）にも描かれるなど、古くから記録が残っている。長い期間「木橋」だったが、1933（昭和8）年に永久橋となった。信濃の橋百選に選定されている。	伊那市中央～坂下	3		伊那市	昭和8年	1933	橋の歴史	昭和48年
5.風土	祭事	A044	さんよりこより	美篶と、富県桜井の天伯様に伝わる七夕祭りで、毎年8月7日に行われる。七夕の神事。三峰川の洪水を鎮める目的。 伝承によれば、室町時代の中期、1427（応永34）年、藤沢片倉（現高遠）に居られた天伯様が洪水によって富県桜井に流れ着き、その後再び洪水によって美篶川手に流れ着いた。これを縁として、桜井と川手に天伯様をお祀りしたのがはじまりとされ、足利時代の1472（文明4）年から続いていると云われている。	伊那市美篶、富県	3		伊那市	室町時代 （文明4年から）	1472	自然と共生	
5.風土	祭事	A045	遠山の霜月祭	湯立神事で古代に宮廷で行われていた祭事が伝承されていると言われている。1979（昭和54）年には霜月祭りが国重要無形民俗文化財の指定を受けた。上村と南信濃に伝わる湯立て神楽。12月上旬から翌年1月上旬までの1カ月間に両村合わせて13の神社で行われている。神事の中心は水にかかわる湯立であり、神事全体を通じて防災意識が見られる。	飯田市上村・南信濃	3		飯田市	平安時代 （貞観年中）		自然と共生	
2.利水	ため池	A046	松川プール	飯田市中心部は台地上に立地し、生活用水の確保が大きな課題であった。そのためプールなどに使える水はなく、周辺の河川やため池で水泳をしていたが、1925（大正14）年、鼎村の本田(ほんだ)亥(い)太郎(たろう)が私有地を提供し、松川の水を引き入れた「松川プール」を建設した。松川プールは周辺の学童・生徒や多くの住民に利用され、水泳大会が開かれたほか、プールサイドに植えられた桜が花見の名所にもなるなど、飯田市郊外の身近な行楽地であった。その後、水質の問題や設備が充実したプールの要望が高まり、1960（昭和35）年、飯田市民プール建設に伴い、しだいにその役割を終えた。現在、松川プールは池になり、敷地はブライダル施設、周辺は桜の名所となっている。	飯田市鼎	3		飯田市	大正14年	1925	利水開発	
4.交流	鉄道	A047	三信鉄道	JR飯田線の「天竜峡～三河川合（約70km）」区間で、1937（昭和12）年に全線開通した。天竜川の険しい地形と中央構造線のもろい地質に阻まれ、日本の鉄道史に残る難工事となった。泰阜ダムや平岡ダムの建設資材の運搬などにも大きな効力を発揮した。北海道の多くの鉄道で測量技士を勤めた川村カ子トがアイヌ測量隊を率いて断崖絶壁での測量作業をやり遂げ、難工事の末に完成させたとの逸話もある。工事には朝鮮人労働者も多く従事していた。 三信鉄道為栗駅の北西には、信濃の橋百選に選定されている万古川橋梁がある。	新城市川合～飯田市川路天竜峡	1,3		飯田市、泰阜村、天龍村	昭和12年	1937	土木工学的な工夫/ 電源開発	
1.治水	堤防	A048	伴野堤防	天竜川を挟んで対岸の惣兵衛堤防からの水はねによる激流によって度々大災害を被ったことを契機として、惣兵衛堤防完成より57年後の1809（文化6）年に完成した。1828（文政11)年の大出水でほとんどが流失。その後も建設と修復が繰り返された。 1883（明治16）年、松尾千振は伴野村有志による「開墾組」を組織し、堤防建設を進めた。その後も、堤防補強・修理が行われ、1904（明治37）年に一応完成したが、1961（昭和36）年に発生した三六災害によって、壊滅的に破壊された。昔の伴野公園に千振と開墾組の石碑がある。	豊丘村神稲	3		豊丘村	江戸時代	1831	水害・土砂災害	
1.治水	堤防	A049	座光寺石川除	天竜川を挟んで対岸の伴野堤防によりはね返された激流は対岸の座光寺村めがけて直進していき、座光寺石川除を造る契機となった。伴野堤防完成より22年後の1831（天保2）年に完成した。1961（昭和36）年に発生した三六災害によって、惣兵衛堤防と伴野堤防は破堤したが、座光寺石川除の保存状態は極めて良い。現在は市道の道路端、耕地の真ん中に位置している。村で建設資金を集めて1831年に完成させた堤防で、1835年には約76mに渡り崩れ、現在残っているのは1868（明治元）年のもの。	飯田市座光寺	3		飯田市	江戸時代	1831	水害・土砂災害	

大分類	小分類	No.	名称	説明	所在地	選定基準	除外基準	市町村名	年代	（西暦）	キーワード	建立の年代（碑など）
1.治水	堤防	A050	お志茂の水よけ	前沢川は土石流の頻発する河川で、下流右岸の田島地区新井はたびたび災害に見舞われた。前沢川の土石流の氾濫原にあったと考えられる松村家（屋号お志茂・松村理兵衛の分家）は、水害から屋敷や、下流の田畑を守るため、上流側に向けて鋭角に石を積み船形にした石積みを造った。場所は、理兵衛堤防の西250mの位置にある。	中川村片桐	3		中川村	江戸時代		水害・土砂災害	
1.治水	砂防施設	A051	日向澤砂防堰堤	1933（昭和8年）、飯島町七久保日向澤に砂防堰堤が建設された。景観や強度への配慮から間知石積ではなく野面石積とした堰堤。また法切、基礎工事にも工夫を施した。本事業は農民を労働者として雇用して救済する「農救事業」により行われた。	飯島町七久保	1		飯島町	昭和8年		水害・土砂災害	
1.治水	砂防施設	A052	七釜砂防堰堤	仏像構造線の位置につくられた砂防堰堤。荒川大崩壊地から流出する土砂を調節するため、高さ28m、堤長122.5m、計画貯砂量121万m　の砂防ダムとしては大規模なダムが1984（昭和59）年に完成した。 基礎岩盤が深いため堰堤の基礎処理として簡易ケーソン工法を使用している。この工法の堰堤は全国的に珍しい。	大鹿村大河原	1		大鹿村	昭和59年	1984	水害・土砂災害	
1.治水	崩壊地	A053	前茶臼ナギ	小渋川上流上沢に位置する前茶臼山東側に広がる崩壊地。 前茶臼山断層に関連して、崩壊が生じている。地質的には秩父中古生層のチャート・砂岩・泥岩の互層により構成されており、1898（明治31）年及び1929（昭和4）年に大災害が発生したとされている。	大鹿村	2		大鹿村			地球活動の痕跡	
1.治水	崩壊地	A054	荒川大崩壊地	荒川岳前岳の頂上近くから一気に崩れている大崩壊地。豪雨のたびに崩壊が発生している。崩壊した土砂の大半は、渓流に堆積し、その後の豪雨により土石流化して下流へ流下する場合が多いと考えられている。崩壊地から供給された岩石が堆積して、広大な「広河原」を形成している。	大鹿村	2		大鹿村	1743～1760		地球活動の痕跡	
1.治水	ダム	A055	美和ダム	1959（昭和34）年に竣工。三峰川に建設された高さ69.1mの重力式コンクリートダム。洪水調節・灌漑・水力発電を目的とする、国直轄の多目的ダム（特定多目的ダム）である。近年、土砂堆積が進み堆砂率が上昇したため、上流から流れてくる土砂をダム湖に貯めず下流に流すバイパストンネルが建設された。	伊那市高遠	1		伊那市	昭和34年	1959	土木工学的な工夫	
1.治水	ダム	A056	小渋ダム	1969（昭和44）年に竣工。小渋川に建設された高さ105mのアーチ式コンクリートダム。洪水調節・不特定利水による天竜川の治水のほか、下伊那郡の農地への灌漑と水力発電を目的とする国土交通省直轄の多目的ダム。小渋川総合開発事業の一環として、小渋第1発電所、第2発電所が小渋ダム築造にあわせて建設された。	中川村、松川町	1		松川町	昭和44年	1969	土木工学的な工夫	
2.利水	用水路	A057	太田切川の井筋	駒ヶ根市や宮田村は太田切川の扇状地上にあり、水を引くことが容易ではないため、農業用水や生活用水の確保に苦労してきた。そこで、扇状地上方の上流側で取水し、そこから用水路を掘って水を下流の村へと送ることが考えられた。江戸時代には、太田切川の右岸に上の井、下の井、下平井、左岸に宮田井（黒川井）、丸山井の五用水がつくられた。	駒ヶ根市、宮田村	3		駒ヶ根市	江戸時代（宝歴5年）	1755	田切地形／利水開発	
2.利水	用水路	A058	西天竜幹線水路 流末の階段工（小沢のそろばん滝）	西天竜幹線水路の末端の水を小沢川へ落とすためにつくられた階段工。困難な工事の末、完成した。その後、用水の落差を活用した発電所を小沢川沿いに設置することとなり、発電所は昭和36年に完成した。水路の水は導水管により発電所に入ることとなり、それ以来、階段工は使われなくなった。	伊那市小沢	1		伊那市			利水開発	
2.利水	用水路	A059	恩田井水	阿智村の伍和地区は、地形が急峻で川が集落の遙か下を流れており、明治の頃まで井戸水の確保も困難な土地だった。漢方医の太田宗硯は、1860（万延元）年より地形測量を行い、恩田川から伍和へ水を引けることを確信した。太田宗硯没後、1894（明治27）年に恩田井水組合が工事を開始し、1898（明治31）年、松沢山を回り込んで引き入れた延長6.5mの井水が完成した。その後、さらに井水は延長され、水田80haが灌漑されるようになった。	阿智村	3		阿智村	明治31年	1898	田切地形／利水開発	

大分類	小分類	No.	名称	説明	所在地	選定基準	除外基準	市町村名	年代	（西暦）	キーワード	建立の年代（碑など）
2.利水	ため池	A060	千人塚公園 城ヶ池	千人塚のある土地は、数万年前、伊那谷の地殻の隆起運動で造られた台地である。平安時代に初めて人が住み始めたが、寒冷な高地の不便さのためか長くは定住しなかった。 城ヶ池はもとは城の空堀だったが、昭和初期に水を引いて灌漑用のため池にした。そして、このため池で温められた水が水田を潤すようになった。池の築造は、当時政府が国内で進めていた農村経済厚生事業により展開されたもので、失業者の救済目的も兼ねていた。2010（平成22）年、全国ため池百選に選定。	飯島町七久保	2		飯島町	江戸時代 （安永年間）	1772～1780	田切地形／利水開発	平成5年
3.産業	森林鉄道	A061	三峰川の森林鉄道跡	三峰川沿い浦国有林にあった浦森林鉄道。1939（昭和14）年、赤石山系の豊富な森林資源を開発するため、宮内庁帝室林野局（現伊那営林署）の管理下で建設された。現在の伊那市長谷の杉島貯木場を起点として、最盛期には塩見岳の麓、北荒川終点まで23.6kmが整備され、年間約3万m　の木材が搬出されていた。 1959（昭和34）年8月の台風7号により、杉島貯木場も流出し、森林鉄道は全線にわたり壊滅的な被害を被った。その後、復旧工事が進められたが、1961（昭和36）年の三六災害で再び流出した。1964（昭和39）年に桃の木～小瀬戸間に三峰川関連林道が、小瀬戸～荒川間にも林道が完成し、浦森林鉄道は廃止された。	伊那市長谷	3		伊那市	昭和16年	1941	森林鉄道の歴史	
3.産業	森林鉄道	A062	遠山の森林鉄道 梨元貯木場	梨元に営林署の貯木場が設けられ、木材を運び出すために使用された鉄道（1944（昭和19）年～1968（昭和43）年）。民間企業（5社）も、台車1台あたりの契約で営林署に使用料を払い、伐り出した木材を自社の機関車で運んだ。いずれも1965（昭和40）年ごろまでに事業を終えて撤収したが、土場の施設は1970（昭和45）年まで使用されていた。民間企業が伐採した木材を、営林署が運び出すのではなく、営林署に軌道使用料を払い、複数の企業が自前で列車を走らせていたという例は非常に珍しい。	飯田市南信濃	3		飯田市	昭和19～43年	1944～1968	森林鉄道の歴史	
3.産業	発電所	A063	小黒発電所	伊那谷に現存する一番古い発電所。長野電灯（株）が建設し、1913（大正2）年に完成。1915（大正4）年、伊那電気軌道（株）へ譲渡され、伊那電気鉄道等、上伊那地域の発展に大きく寄与した。現在は中部電力(株)が管理している。 建設当時は、約2km上流の取水口から発電所の真上に見える水槽まで木の樋を使い、導水路延長1,358m、落差226mで、250kwの発電をしていた。現在は機械の取替えにより1,100kwの発電が可能である。 2013（平成25）年に、運転開始から100年の記念式典が行われた。	伊那市伊那	1		伊那市	明治44年	1911	電源開発	
3.産業	発電所	A064	大久保発電所	下流にある南向発電所の建設用として、1926（大正15）年11月から1927（昭和2）年9月にかけて、天竜川電力（株）がわずか10か月で建設した天竜川本流にできた最初の発電所である。高い落差を利用した発電所と異なり、多量の水の水圧を利用したダム式で、4台の水車ランナが水槽の中に入っていて、落差が5.7mと低い全国でも珍しい発電所。ダムは堰堤高約3.5m、長さ約26m。発電所はダムの約376m下流にある。南向発電所建設以後は発電した1500キロワットの電気を、上伊那地区の家庭と工場に送っている。	駒ヶ根市東伊那	1		駒ヶ根市	昭和2年	1927	電源開発	
4.交流	橋	A065	虹橋	1958（昭和33）年に完成した高遠ダムから取水した水は、かんがい水路を通り、三峰川右岸一帯へ運ばれ、約1,140haの農地を潤している。 虹橋は、この水を三峰川右岸へ運ぶための水路橋。 用水は、左岸の伊那市高遠町小原から三峰川を水路橋で渡った後、右岸1号、2号幹線に分かれる。両岸が絶壁となっている場所を、アーチ型で渡り、建設当初から「虹橋」と呼ばれる。	伊那市高遠町～美篶	1		伊那市	昭和33年	1958	橋の歴史	
4.交流	橋	A066	めがね橋（長姫橋）	江戸時代、飯田城下町（現飯田市街地）は深い谷（谷川）によって南北に二分されていた。谷川に木橋が架けられたが、橋の南（堀端通り（現銀座通り））と、北（伝馬町）は急坂を上り下りしなくてはならなかった。 明治維新後に飯田城が廃城になると、中馬によって物資が集まる交通の要衝として、馬車通行を想定し、橋の前後の坂を埋め立てることとなり、1878（明治11）年、谷川にアーチ型の石橋が完成した。かつての谷川橋が、この時、飯田城の古名を残すために「長姫橋」と改称されたが、その形状から「めがね橋」と通称された。1947（昭和22）年の大火後の改修で正式に「めがね橋」となった。信濃の橋百選に選定されている。	飯田市伝馬町～銀座	1		飯田市	明治11年	1878	橋の歴史	

大分類	小分類	No.	名称	説明	所在地	選定基準	除外基準	市町村名	年代	（西暦）	キーワード	建立の年代（碑など）
4.交流	橋	A067	伊那路橋	江戸中期には架設され、伊那路と江戸を結び中馬輸送を支えた街道の橋。伊那路と中山道の下諏訪宿を最短で結ぶ岡谷道（諏訪道）の整備とともに往来が盛んになった。当時の橋は「大橋」と呼ばれており、経費を幕府が負担する「主要街道の橋」と位置づけられていた。 現在の橋は1994（平成6）年に架け替えられたものである。	箕輪町東箕輪～中箕輪	1		箕輪町	昭和8年	1933	橋の歴史	
4.交流	橋	A068	北の城橋	北の城橋は、つり橋としては天竜川に架かる最上流の橋。たびたび水害に遭うため渡船が常用されていたが、1928（昭和3）年につり橋が架けられた。現在の橋は1958（昭和33）年7月の豪雨災害による崩落の後に修復されたもの。名前の由来は、近くの中世の史跡「北の城」。信濃の橋百選に選定されている。	宮田村中越～ 駒ヶ根市東伊那	1		宮田村、 駒ヶ根市	昭和2年	1927	橋の歴史	
4.交流	橋	A069	中之橋	我が国最初期の「鉄筋コンクリート製カンチレバー桁橋」の一つで、1932（昭和7）年に架設。県内では1931(昭和6)年に完成した大正橋（千曲市、現存せず）に次いで2番目に古い。完成当初は鉄筋コンクリート桁橋としては最大の支間長26mを誇った。阿知川の洪水に耐えうる永久橋として、1882（明治15）年架設のつり橋や大正年代の架け替えを経て建設された。信濃の橋百選に選定されている。	阿智村駒場	1		阿智村	昭和7年	1932	橋の歴史	
4.交流	橋	A070	南宮大橋	この地は、古くは南宮峡と呼ばれる景勝地で観光船が発着するほど賑わっていた。 1897（明治30）年に左岸の泰阜村温田地区、右岸の阿南町御供地区が、中州（中ノ島）を境にそれぞれ木橋とつり橋の二つの橋を架けた（私設有料橋）。1951（昭和26）に南宮2号橋が架け替えられたが、同じ年、下流に平岡ダムが完成し、堆砂により河床が上昇した。1983（昭和58）年の台風災害では冠水被害が出た。1995(平成7)年6月に水面から十分な高さを持つ斜張橋「南宮大橋」に架け替えられた。信濃の橋百選に選定されている。	泰阜村温田～阿南町北条	1		泰阜村、阿南町	平成7年	1995	橋の歴史	
4.交流	橋	A071	天竜橋	長野県が管理する唯一のつり橋。 秘境の無人駅、JR飯田線為栗駅に通じる歩行者専用のつり橋である。駅前まで車は入れないが、駅前が県道為栗和合線の起点であるため、県道となっている。 信濃の橋百選に選定されている。	天龍村平岡～長島	1		天龍村	昭和9年	1934	橋の歴史	
4.交流	橋	A072	羽衣崎橋	天竜川の名勝「羽衣崎」は、平岡ダム湖の湖面となる地にあり、山紫水明の渓谷の自然美と調和したニールセンローゼ形式が採用されている。 平岡ダム湖岸道路開設事業として1974(昭和49)年に完成。県最南端地域の生活を支える重要な道にある。 信濃の橋百選に選定されている。	天龍村平岡～長島	1		天龍村	昭和49年	1974年	橋の歴史	
4.交流	峠	A073	牛首峠	1601（慶長6）年、徳川家康が、東海・中山・奥州・日光・甲州の五街道の制を定めた。幕府の勘定奉行であった大久保長安は、中山道のルート決定にあたり、下諏訪から岡谷、三沢を経て小野宿を通り、牛首峠を越えて贄川に至る小野街道を開いた。1616（元和2)年、塩尻峠を通る中山道が開通し、牛首峠を通る道は、わずか15年で廃道となったが、伊那米の木曽への移入路として江戸時代を通じて大いに利用された。	辰野町小野	3		辰野町			峠の歴史	
4.交流	峠	A074	地蔵峠	大鹿村の青木川と上村の分水嶺となっており、古くから秋葉街道の中の難所の峠の一つだった。 標高1314m。古くは「遠山峠」とも呼んだ。名前の由来となった地蔵は、元々は峠の南にある「堂屋敷」地籍に安置されており、四基あったうちの二基を大正時代頃に相次いで移転したものという。	大鹿村、飯田市	3		大鹿村、飯田市			峠の歴史	
4.交流	峠	A075	善知鳥峠	太平洋側の伊那谷と、日本海側の松本平の分水界になっており、峠には分水嶺の碑もある。 江戸時代から明治の初期までは、中馬の発着点の松本と飯田を結ぶ伊那街道の峠として人馬の往来で賑わった。峠から北小野にかけての街道沿いには、馬の供養や安全祈願のために建てられた石の馬頭観音が非常に多い。	塩尻市上西条～北小野	3		塩尻市			峠の歴史	

大分類	小分類	No.	名称	説明	所在地	選定基準	除外基準	市町村名	年代	（西暦）	キーワード	建立の年代（碑など）
5.風土	祭事	A076	雪祭	新野の雪祭は、雪を稲穂の花にみたて、大雪(豊年)を願う祭り。祭り当日に雪が降ると豊年になるといわれ、新野に雪がないときであっても、離れた峠から雪を準備し、神前に供える。 伊豆神社境内で行われ、田楽・舞楽・神楽・猿楽、田遊びなどの日本の芸能絵巻が徹夜で繰り広げられる。1977(昭和52)年、国重要無形民俗文化財に指定された。	阿南町新野	3		阿南町			自然と共生	
5.風土	祭事	A077	天龍村の霜月神楽	毎年正月の1月3日から5日にかけ、向方地区（天照大神社 お潔め祭）、坂部地区（諏訪神社 冬祭）、大河内地区（池大神社 例祭）で行われる冬祭り。いずれの祭りもかまどを築いて湯をたぎらせ、それを神々に献じてから人々に振りかけて魂を清め、同時に神歌をうたい、あるいは舞をまうという湯立神楽の形式をとどめており、祭り全体から水の神聖さが伝わる。 1978(昭和53)年、国重要無形民俗文化財に指定された。 3地区のうち坂部は、仮面の舞など豊富な内容をもっている。	天龍村向方、坂部、大河内	3		天龍村			自然と共生	
4.交流	峠	A078	大平峠	飯田市と南木曽町の境にある峠（標高1,385m）。大平街道は伊那と木曽、両方の谷を最短距離で結ぶ街道で、大平峠と飯田峠の二つの峠がある。この道は16世紀後半から活用され、1755(宝暦5)年に飯田藩主堀親長が改修した後は、清内路峠より距離的に近い大平峠が人馬の往来で栄えた。旅籠、休み茶屋、問屋もできて宿場町の機能を持つようになった。明治・大正には大平宿として隆盛した。しかし、飯田線の全線開通、自動車輸送の発達により宿場としての機能は衰え、1970（昭和45）年、集落は集団移住し、廃村となった。	飯田市上飯田	3		飯田市			峠の歴史	
5.風土	地形	A079	深見池	深見池は最大深度8.5m、周囲700mの天然の湖。 1662（寛文2）年の大地震の時に発生した、大きな地すべりの窪地に水がたまってできた。 周囲が丘に囲まれていて風による水のかきまぜが少ないため、夏期には水面下4mより深い層には酸素がとどかず、硫化水素を含むようになる。水中の硫酸イオンの量の多い火山・汽水地域でもないのに、夏期の光合成硫黄細菌層の発達するのは大変珍しく、国際学会でも発表されたことから、「LAKE FUKAMI IKE」として国際的にも著名になった。	阿南町東條	2		阿南町			地球活動の痕跡	
1.治水	災害の伝承	A080	濁流の子－伊那谷災害の記録（出版物）	1961（昭和36）年6月下旬に伊那谷を襲った豪雨災害「三六災害」。その災害を目の当たりにした小学生、中学生、高校生らの作文を集め、1964（昭和39）年に発行された冊子。碓田栄一さんが個人で作業に当たった。 文集は当時の学童、生徒自身の言葉で災害の恐ろしさ、友人を失った悲しみ、災害で家や田畑を失った状態での不安な高校受験、見知らぬ人々からの励まし、復興の様子などが語られている。	三六災害被災地広域	2		駒ヶ根市			三六災害	
1.治水	その他	A081	太田切川 橋場礎石	春日街道は江戸時代初期に完成した街道。その街道沿いの太田切川に架けられた「はね橋」橋脚の礎石。 1968（昭和43）年2月、河川工事実施中に川のほぼ中央より発見された。礎石は河床に埋没している巨石（高さ約3m、幅約4.5m）に深さ13cm、径35cmの柱穴が穿ってある。この橋は、上野橋または北原橋と呼ばれており、明治中期まで光前寺への参拝道路であった。春日街道橋場跡碑が駒ヶ根側と宮田村側に建てられている。	駒ヶ根市（太田切川橋場）（碑：駒ヶ根市北割一区／宮田村新田区）	1		駒ヶ根市 宮田村	江戸時代		田切地形／橋の歴史	昭和43年発見
5.風土	地形	A082	切石公園	この公園を中心に、「切石」「重ね石」「地蔵石」「袋石」「ござ石」「蛇石」「小袋石」という七つの巨石（七名石）が点在する。氷河の力と、洪水の力によって、駒ヶ岳の頂上から運ばれてきた石である。氷河時代に巨石が人間の住む平地にまで押し出された石は日本中でここしかない。	駒ヶ根市赤穂	2		駒ヶ根市			地球活動の痕跡／田切地形	
3.産業	発電所	A083	松川第一発電所	1899（明治32）年飯田電灯(株)は、米国製発電機を使って伊那谷で最初の発電所（松川第一発電所）を建設した。最大出力75kW。1930（昭和5）年に廃止され、今は発電に使う水を通した導水路（石積み）を対岸に残している。 1919（大正8）年松川第二発電所を下流に、1924（大正13)年松川第三発電所を上流に建設。 1930（昭和5）年松川第四発電所を新設し、第一・第二発電所は廃止された。	飯田市上飯田	1		松川町	明治32年	1899	電源開発	

大分類	小分類	No.	名称	説明	所在地	選定基準	除外基準	市町村名	年代	（西暦）	キーワード	建立の年代（碑など）
5.風土	露頭	A084	安康露頭	大鹿村を南北に貫く中央構造線南端、青木川沿いに位置する、幅約30mにおよぶ巨大な中央構造線露頭。安康は地名。領家変成帯（向かって左側）の花崗岩などと三波川変成帯（向かって右側）の緑色片岩などとの間に2列の角礫帯が観察できる。長野県天然記念物に指定されている。2013(平成25)年6月、史跡名勝天然記念物指定に向け、文化庁の文化審議会が文部科学大臣に答申を行った。	大鹿村安康	2		大鹿村			地球活動の痕跡	
5.風土	露頭	A085	北川露頭	大鹿村を南北に貫く中央構造線北端、鹿塩川沿いに位置する中央構造線露頭。領家変成帯（向かって左側）の花崗岩と三波川変成帯（向かって右側）の緑色片岩の間が、地質境界の中央構造線。長野県天然記念物に指定されている。2013(平成25)年6月、史跡名勝天然記念物指定に向け、文化庁の文化審議会が文部科学大臣に答申を行った。	大鹿村北川	2		大鹿村			地球活動の痕跡	
4.交流	街道	A086	秋葉街道	秋葉街道は、近世中・後期から、火防の神としても知られる秋葉神社参詣のために盛んに利用された道。 ①高遠的場－長谷－分杭峠－大鹿村－地蔵峠－南信濃－青崩峠－遠州に至る道筋、②飯田市八幡－飯田市下久堅・上久堅－小川路峠－地蔵峠で合流、の二つの道筋がある。秋葉信仰が広まる前から存在していた古い道で、諏訪からは、太平洋への最短経路であった。	伊那市、大鹿村、飯田市	3		広域			中馬の歴史	
4.交流	峠	A087	杖突峠	伊那市高遠町と茅野市の境界にある峠。標高1,247m。国道152号が通っている。杖突峠の南に位置する「守屋山」は諏訪大社のご神体であり、かつてこの峠では神降ろしの儀式が行われていた。降りてきた神がはじめてその杖を突く場所がこの峠であることから、杖突峠という名がついたとされる。	伊那市高遠町、 茅野市宮川	3		伊那市			峠の歴史	
4.交流	峠	A088	分杭峠	伊那市と下伊那郡大鹿村との境界に位置する標高1,424mの峠。静岡県浜松市の秋葉神社へ向かう街道として古くから利用された秋葉街道の峠の一つであり、重要な交通路であった。秋葉街道は、西日本の地質を内帯と外帯に二分する中央構造線の断層谷を利用した街道であり、分杭峠は中央構造線の谷中分水界にあたる。	伊那市長谷市野瀬、大鹿村鹿塩	3		伊那市・大鹿村			峠の歴史	
4.交流	峠	A089	権兵衛峠	権兵衛峠は経ヶ岳と駒ヶ岳の鞍部に開かれた標高1,522mの峠。宿場町の木曽は稲作に適さない地形のため米が不足していた。そこで木曽の牛方古畑権兵衛が、伊那谷より米の移入をスムーズにするため木曽谷と伊那谷との交通路として改修した。難工事の末、1696（元禄9）年に開通。峠には江戸時代の石碑が残っている。	南箕輪村北沢、 塩尻市栃洞沢	3		南箕輪村	元禄9年	1696	峠の歴史	
4.交流	峠	A090	治部坂峠	標高1,191m。治部坂峠は、阿智村（旧浪合村）と平谷村との境にあり、三州街道の最高標高地点である。峠の北側の崖上には、武田氏以来の関所跡があり、礎石などの遺構が残っている。峠付近の山麓部は戦前は牧場として利用されていたが、最近は避暑地として別荘地が整備されたり、スキー場が開発されている。	阿智村、平谷村	3		阿智村、 平谷村			峠の歴史	

※A036は欠番